

588

特254
307

院議員岡田忠彦氏述

旋風裡の歐米

中央朝鮮協會



始



特254
307

はしがき

昨年夏秋の交際米旅行をせられし衆議院議員岡田忠彦氏を御招きして三月二十七日本會は氏の矚目偶感の一端を聴聞した。氏の豊かな御胸懷から滾々として湧き來る御話は汲めども盡さず聽者をして時間の短かいのを遺憾に堪へざらしめた。本篇はその興味津々たる話の速記録である。

昭和十一年四月

中央朝鮮協會



旋風裡の歐米

衆議院議員 岡田忠彦氏述

實は昨年夏から秋にかけてまして半年ばかり歩きましたので、些かその記念にと思ひまして「旋風裡の歐米」と云ふものを出しまして、友人の間に配りましたのです。それを御覽になりまして、讀むのは面倒だから一度話をしろと云ふことなので止むを得ず責任上過日日本俱樂部で話しました。圖らずもその事が關屋さんのお耳に這入りまして、こちらでお話をしろと云ふことでありましたが、皆さんは御専門のことでもあり、既に御承知のことと思ひますから何だか恥かしいやうな氣も致しますが、兎に角少しばかりお話を申上げてみたいと思ひます。

亞米利加

私が亞米利加上陸致しましたのは恰度五月二十七日でありましたが、船でラヂオニュースを聽いて居りますと、亞米利加の所謂ニュー・デイルと云ふものが、大審院の判決で敗れてしまつたと云ふことでした。これは見物としては面白い、火事は大きい程いゝと思つたものですから、桑港に着きまして早速其處からワシントンへ直行致しました。さうして六月三日に向ふに着きまして、それから大使にルーズベルト大統領に會つてみたいものだと思ふ希望を申しましたところが、今忙がしいやうだけれども折角來たのだから聞き合はせてやると云ふことになりました。幸にして三日目の六月六日に會ふことが出來ました。白聖館の方で會つたのでありますが、皆さん御承知でありませうが大統領の部屋と云ふものは餘り大きくはありません、この部屋を少し大きくした位でありませう、ベランダに青い草花なんか植はつて居りました。大きな机の前に大統領は腰掛けて居りましたが、その腰掛けた儘手を出しましたから不思議な人だなと思ひました。然しこれは脚が不自由で器械で立つたり坐つたりして居

るのださうであります。大統領は寫眞で御覽になります通り和蘭系の種の人で、場面の廣い大きな顔をして居ります。寧ろ日本人のやうな平面的な顔をして居りまして、にこやかで愛嬌のいゝ人であります。二重鉤の背廣、赤いやうなチョッキ、ネクタイで如何にも派手な服装でありました。私はお目にかゝりまして、貴下にお目にかゝるのは初めてであるが、亞米利加の大統領として會つた人はこれで五人目だと云ふことを云ひました。どう云ふ譯かと聞かれましたので、私はこの前——十五年程前に亞米利加に参りました。スタンフォード大學にジョーダンと云ふ博士が居りましたが、その人の紹介でフーバー氏夫妻に會ひました。フーバー氏は當時食料管理官と云ひますか、さう云ふ地位に居られた。又その後東に参りましてクーリツヂ氏が知事をして居りましたが、巡查のストライキ何かを治めて有名になつて居つたから一寸會つてみたいと思つてこれを訪ねた。それからタフト氏がタフト・ホテルで辯護士をして居つた時分に會つた、これは大統領をやめてからであります。それからウキルソン氏であ

りますが、これは病氣引籠中で會ひませんでした。署名した寫眞を秘書官を通じて呉れました。かくて貴下が五人目であると云ふ話を致しました。さうしますと大統領が云はれるには、それは珍らしいことだ、私も日本はよく知つて居るのだ。私の母方の方の祖父と云ふのは上海で茶の商賣人をして居つた、然し上海は氣候が荒いから日本の穩やかな氣候を求めて夏冬は屢々日本を訪問した、ルーズベルト家にとりては日本と云ふものは昔からよく知つて居ると云ふので非常に愛嬌がいゝ、非常に親しい氣持ちになつたからこつちも腰を下ろして話しました。

私は最後に別れる時に、貴下は今非常に忙がしい折柄である、私の察する所に依れば貴下は歴代大統領中一番忙がしい時代に際會されて居るのである、その上に脚が不自由だ、然るにも拘らず今日斯くも快活で居られるし、御健康の状態もいゝやうに見受けられる、一体貴下はどんな風にして御健康を保たれて居るのかと聞きました。すると大統領は直ぐ口の下から答へたのであります、「ドント・ウォーリー」、私は何事が

あつても屈託せぬ、これ即ち私の健康法であると。私もこれを聽いて嬉しかつたのであります。屈託せぬと云ふことが出来るものならば斯んなに忙がしくてもよからうと思つた。所謂樂天的な氣分を持つてやつて居る人でありまして、茲に——大統領が大きな仕事を爲して尙且精力を蓄へて居ると云ふ所に値打があると思ふのであります。その上に尙附け加へてこの人が申すのに、自分は御覽の通り不自由な身體であるから一日一度裏に設けてあるプールで泳いで、さうして身體をこするのだ、さうしてまた一週間の半分は公務を離れて自分の思ふやうに時間を使ふのだ、現に自分の官邸の裏二階に映寫室が設けてあつてそれを觀て楽しむ。非常に大きな責任を持ち、非常に忙しい人としては餘り氣樂さうに思へる位に氣樂なことを云つて居つたのであります。

その後私は白耳義の都に参りまして、首相バンヂーランドと云ふ人——四十五、六のまだ若い人で、御承知のやうにあすこの國立銀行の副總裁、前内閣の無任所大臣、さうしてその後それが滅びまして遂に總理大臣となつたところの先づ財政家であると思

ひますが、この人にお目にかゝりました。本に依つて見ますとこの人はルーズベルト氏を崇拜しルーズベルト張の政治をやつて居る。聞くところに據ればこの人はプリンストン大學でありましたか亞米利加でも修業して居たさうであります。この人に會つてルーズベルトとの會見に託して話を進めたのであります。その話の中で、大統領に會つて斯う云ふお話であつたと申しましたところが非常に喜んだのであります。さうして彼が云ふのに、その「ドント・ウォーリー」と云ふ言葉は實に面白い、實は私もさう云ふやうに思ふのだ、世の中は幾ら悲觀しても役に立つものではない、瓶の中に水が半分ある、悲觀する人は、あゝ半分になつて困るなアと云ふて頻りに心配するけれども樂觀主義者と云ふものは、これで澤山だ、俺の力で何時かはまた一杯にするのだと云つて努力する、實にルーズベルトの考へには同感であると申しました。私は誠に面白い話だ、いづれ歸つたならば私等の友人にも話して聽かせやうと申して來たのであります。

ルーズベルトに限らず、ヒットラーにしても、ムッソリーニにしても、何れも皆私は悲觀論者でないと思ふ。先に進んで行かう、進んで行かうと云ふ、さう云ふ精神を持つて居る。また何れも健康を持つて居るやうに見えます。健康に恵まれて居るやうに見えます。歐羅巴は全く旋風裡にあり、渦卷の中に居りますけれども、これを導いて居る政治家は皆眞剣味を帯び、生命を擲つ覺悟を持つて、而も快活な意氣を以て進めて居ると云ふことが、茲に歐羅巴が旋風裡に於いても生命の存する所以であらうかと、斯様に考へて觀て參りました。

扱てこの亞米利加のニュー・デイルと云ふものはどんなものであるかと申しますと、これは日本にも澤山文献があり、私も随分澤山集めて參りましたが、それを詳しく申上げるにしても時間もなし、私も忘れてしまつて居ることが多いのですが、要するに不景氣を恢復すると云ふリカヴァリーと云ふことばかりではない、茲にリフォームと云ふ大きな精神が流れて居る。リカヴァリーと云ふこと、リフォームと云ふこと

とは矛盾するところがあるやうに思へるが、その間に調和を圖つて進んで行かうと云ふところに大統領の苦心があるのではないかと思ふのであります。この亞米利加の資本と云ふものゝ勢力——ウォール・ストリートと云ふものが亞米利加の經濟界を支配して居ることは明らかであります。これではいかん、これを是正する爲には先づ以て政府の權力を強くする、所謂聯邦政府の力と云ふものを強くして、一面に於いては各州の力を殺ぐ、次いでこれを中央に集めると云ふ精神、またこれを集めるに就いても先づ以つて資本主義を打倒してしまつて、中央政府の政權に據つてやると云ふ過激な意見もあるが、資本は多少宛是正すればいい、憲法の改正により中央集權を先にするがいと云ふやうに、その順序、強弱の意見と云ふものはいろ／＼分れて居るやうであります。大統領の周圍の人達——各大臣、高官、議員——の話を聴きましても矢張り分れて居ります。併しながら兎に角中央集權を多少でもやつて行かうと云ふ大方針は何處迄も存して居るやうに見えるのであります。又一面もう一つの思想が宿つて

居る、即ち都會地の利益と云ふもの——工業なら工業の利益が、農業の利益に較べて非常に厚い、故に工業の利益を殺いで農業の利益と云ふものを多くして、互ひに均衡を保たしめやうと云ふことに力が這入つて居るやうであります。例へば農産物の加工税と云ふものを取りまして、それを以て農業の方に振り向ける、その一つの現はれば減段をさせて、その金は加工税で擧がつたもの、方から與へる、斯くして農工の利益の均衡を圖らうと云ふのであります。

以上二大眼目の下に進むのでありますが、その具體案に至つては千差萬別、各々その説は人によつて異つて居ります。例へば今亞米利加の大統領は四十八億と云ふ金の使用を議會から委任されて居る、金を先に取つてしまつて、その後はその金の使ひ道を考へ様と云ふのは甚だ可笑しい話でありまして、日本でそんなことをしたならば議會で通さぬが、向ふでは大統領の勢に壓せられてさう云ふことが行はれて居る。でその四十八億と云ふ金をどう使ふか、後から詮議をして居るのでありますが、その使ひ

方に就いても或は農業大臣のワレーズ、或は國務卿ハルの意見、或は又ポブキンズ——労働問題を主としてやつて居る失業問題の方の主任——是等は何れも意見が異つて居るのであります。或人は金を無闇に使つてはいかんと云ふし、又或人は——労働大臣パーキンス女史——金をうんと使はなければならぬと云つて居る。その爲に労働者に金が殖えて来れば自動車が賣れる、労働時間も減らし、金も殖やせば初めて労働者が遊山に行くことができ、そこで自動車工業が興つて来る、金をうんと使ふと云ふことを考へなければならぬと云つて居ります。然し一方では金の使ひ方も判らずに無闇に使つてはいかんと云ふ、例へば歐洲戦争の時に亞米利加の兵隊が行つた、皆一週間目とか一月目とかに金を貰ふ、皆同じやうに貰ふが、使ひ方が判らぬから二、三の精巧なのが博奕を打たしたり、いろ／＼なことをして結局その少數の者のところへ金が集つてしまふ、そんなことがあつてはならぬ、それでは金をどぶに捨てるやうなものだと云ふ。さう云ふやうなことをいろ／＼觀て居る間に、大統領は骨が折れるな

と云ふことが窺はれたのであります。悪い方面から云へば滅茶苦茶になつて居りますが、その大精神と云ふものは資本主義の是正、政權の分散を中央に集める、又農業の保護も、斯う云ふやうな所にあると云ふことはよく判ると思ふのであります。

亞米利加では——何處でも多少ありますが——輿論の力と云ふものが非常に強い。それだから政治家と云ふものが輿論に媚びて意見を述べると云ふことが甚だ多い。日本より多いやうに思ふのです。私が觀て較べたところではさう思へる。カリフォルニヤのタウンSENDと云ふ醫師の如きは、人間六十に達したならば何れも恩給を出せと云ふのであります。さうすると老人は後の方に退いて食ふだけは食へる、さうして若い者は仕事を得られる、さうすれば總てのものが新たに成る、故に六十以上の者には總て恩給を與へると云ふことを唱へ出した。それが非常な勢を以て亞米利加全體に擴がつてしまつた。リストに載つて居る會員が何百萬人か居ると云ふことであります。向ふの政治家はその門を叩いて自分への投票を頼まなければ當選出來ぬと云ふ騒

ぎが起つて來たのであります。さうかと思ひますと今度はヒュイ・ロングと云ふ者が居りました、この男は富の分け前を受けると云ふ、富は一方にのみ非常に蓄積偏在して居り、一方にまた非常な貧乏人が居ると云ふことは甚だ不都合だから、富を取り上げて公平に分配しろと云ふのであります。如何にも簡単なスローガンでありますから、さう云ふ簡単なスローガンがはやるのであります、これ亦非常な信望を得て居る。その説を取り上げてカブリンと云ふ坊主がデトロイドの奥から全米にラヂオ放送をする、ウエルスの分け前に與れと云ふスローガンであります。それに歸依した人々が毎日賽錢を送つて來て、その爲に寺が一つ建てられ、毎日澤山書記を使つて禮狀を書かなければならぬ、名簿に登録しなければならぬと云ふ有様であります。

私が恰度議會で海軍委員長に會つて居る時の話でありましたが、今ヒュイ・ロングが既に四時間演説して居ると云ふことであります。これは大統領の法案を妨害しやうと云ふ肚であります。もう既に期限が切れるから引つ張つてやらうと云ふのであり

ます。後から聞きますととう／＼十八時間やつたさうです。其處に若い者が四人程集つて居つて、不穩なことはいかん、故に休憩を與へぬことにしろと云ふので、斷じて休憩動議に賛成しない、演説者に小便をする爲だけの時間を與へて、他は一切休憩を與へぬことにした。何を話したかと云ふと、蠅をフライするには斯う云ふ方法がある自分の伯父さんに義侠心の強い人が居つた、或酒屋の丁稚が酒を調査することが下手だと云ふので追ひ出されさうになつたので、それを伯父さんが聞いて酒屋に乗り込み二日間其丁稚を側に引きつけ調合の仕方を教へてやつたので無事に收まつた、などと云ふやうな話をして居りますから何時迄も切りがありません。然し休憩を許されぬものだからそのうちにふら／＼になつてしまつたが、十八時間やつたさうであります。此ロングと云ふ人はルイヂアナと云ふ所の知事をして居た時に根をはつて、自分の州では警察官も裁判官も皆自分の手の中に入れてしまつた、ロング派に非ざる者は人に非ずと云ふやうな勢を守り立てた。怨をかつたかロングが地下室の廊下を歩いて居つ

た時にやられてしまつた。用心棒も澤山持つて居つたのでありますが、間に合はなかつたらしいのであります。

また議會は大統領に銀をどん／＼買へと云ふて法律案を出して議決した、それも聲程は買つて居らぬやうであります。又先程申上げた四十八億の金も聲程は使つて居らぬやうでありますが、亞米利加の政府と云ふものはいろ／＼な身振り手振りをし民衆を騙しつゝあるのではないかとも思はれるのであります。それで日米開戦論なども向ふの新聞の論調などに直ぐ驚くと云ふことも間違ひで、その内容に検討批判を加へると云ふことが日本人として賢明であるのではないかと思ふのであります。例へばルーズベルトとハルの關係にしても、ハルは自由貿易主義者でありますが、大統領は保護政策の主張者であります。この二人が有耶無耶の話をして居ると云ふことも一寸面白いと思ふて來たのであります。

それからニューヨークの市長に會ひました。これは伊太利系の人でありまして、そ

の丈は一寸私位しかありません、或はもつと低いかも知れませんが、これも用心棒を十人も連れて廊下を歩き廻つて居る。その豫算を見せて貰ふと、弗を圓の三倍として換算すれば我政府のより大きいのです。その話の中で一番實のある話だと思ひましたのは、タマニー・ホルの話であります。タマニー・ホルとはどう云ふものか、これは間歇熱のやうなものである、押へられたり頭を擡げたりして居る、今はこれを押へて居るのだ、今タマニー・ホルの者が此處のドアを開けて這入つて來たら自分はそれを窓から放り出して見せると云ふのであります。而もその熱のある言動からして實際その勢を以てやつて居るのだと云ふことが窺はれたのであります。それに比較して東京の市政の状態を観ます時に、もう少し市政と云ふものに市長が骨を折つて貰ひたいと思はざるを得ぬのであります。身命を賭してやると云ふ覺悟がなければならぬと思ふのであります。ニューヨークの市長は實にえらい勢であります。さうしてウォール・ストリートル・ストリートの金權者流に對してえらい勢で當つて居るのであります。ウォール・ス

トリートの人達に會つて見ると皆異口同音にルーズベルトの悪口を云ふ、彼は氣狂ひだと極言するものすらある、身體の悪い者に限つて極端な考へを持つものだ、彼は脚がなへて居るから極端な考へを持つて居るのだと云ふて居りますが、併しながら、ルーズベルト氏がその間に處してやつて居るところに値打がある。今ルーズベルトが失脚しても資本主義の是正と云ふことは一步も二歩も進めたのでありますから、所詮元に戻ると云ふことはもうなからうと思ふ。而もウォール・ストリートの人達は斯う云つて居る、私等の國は富んで居るのだから耐へ得る、君等の國は貧乏だから出來ないが、自分等の方は金があるのだからやつて見たらいい、實驗だ、と云つて居るのを見ても意氣があると云ふことはよく判るだらうと思ふのであります。

英 吉 利

餘り停頓しますと長くなりすから先に進みますが、今度は英吉利に渡つて見たのであります、英吉利を出まして白耳義の方から北の方の歐羅巴を觀て廻つたのであ

ります。

この英吉利は私が國を出ます時には、あれは老大國であつて再び起つことは出来ないと云ふことを聞かされて居つたのであります。ところが行つて見ますと強ち左様な所ではありません。北歐の國々と云ふものは何れも英吉利の輿論の動向と云ふものに依つて動かされて居る、政治家も民衆もそれを氣にして居る、殊に新聞の論調と云ふものを氣にして居るやうであります。尤もこれは御承知のやうにロンドン・タイムスに致しまして、マンチエスター・ガーディアンにしても、大抵あすこの新聞と云ふものは過激を避けて穩健中正と云ふか、輿論に寧ろ追従する場合もあるし、輿論を指導する場合もあるやうであります。兎に角輿論と餘りかけ離れて居らぬものでありますから、新聞の論調を重んずることは止むを得ぬ。英國の新聞論調が北歐諸國の政治、經濟を動かして居ると云ふことは明白に見えるのであります。

佛蘭西は御承知の通り所謂小協商國を築いて自らその親方になつて、金ブロックの維持に努めて居る。然しこの佛蘭西の金ブロックは英吉利の力を藉りなければ維持出来ぬと云ふので、屢々金ブロックの崩れんとする時に融通を受けて居る。英吉利はまたずるくつて金が下る時はどん／＼貸して置いて、さうしてブロックが立て直り、値段の上つた金を返して貰ふから、上らうが下らうが損をせぬやうにして佛蘭西を引つ張つて居ると云ふことは、金を持つて居るから仕方がないのであります。實際行つて見ると云ふと憎らしいやうな氣がするのであります。佛蘭西の下に居る協商國と云ふものは佛蘭西に倣つて英吉利の動向と云ふものを第一に考へて居る、これは申す迄もないことであります。チエッコ・スロバキアの今度の大統領ベネスと云ふ人に會ひましたが、英吉利のことばかり話すのであります。この人は、英吉利はエチオピアの問題を動機として歐羅巴の外交界に根を下して來た、今迄は歐羅巴の問題には可成言葉を容れなかつたが、今度は容れたやうである、容れて呉れさへすれば幣制の問題、爲替の問題もいろ／＼大問題も片附いて、歐羅巴の平和も維持されるだらうと云ふや

うな英吉利のことばかり話して居る。そこで私が貴下は一体佛蘭西の協商國ではないかと云つたところが、思ひ出したやうに佛蘭西のことを云ふ、同盟國であると云ふことは忘れてゝもゐたやうであります。左様な譯で尠くとも歐羅巴の天地は英吉利が抑へて居ると云ふことは間違ひないのであります。

それで向ふに居る日本人に伺つて見たのであるが、英吉利は成程世界の第一等の商業國、第一等の工業國たることはもう止めたと云ふのであります。じつと踏みこたへてこの地位と云ふものを強固に守つて行かう、さうして時節があつたらまた起きて行かうと虎視眈々たる決心を持つて居るのだと云ふことを申して居つたのであります。その證據には巴里の國際商業會議所の會議に於いてもアーサー・バルフォアと云ふ人が出て云ふのに、若い國の工業品が古い國の工業品に打ち勝つて來ると云ふことは歴史の證明するところである。フィニシヤ、ギリシヤの昔は云はず歐洲戰爭前の亞米利加、獨逸の工業の發展を見ても、若い國の工業が發展するのは歴史の示すところであ

つて、何人もこれを防ぐことは出來ない、老大國はその事を覺悟しなければならぬのだ、それに調和するやうに自分の方を直して行くのが純理である、是即ち人類の進歩、人類の幸福に貢献する所以だ。若し新進國の生産品が發展することを防げれば、今度はその新進國の工業品の原料を出して居る國が亦困るではないか、その原料國が困り繁榮しなければ、また翻つて老大國も産物を之に賣ることも出來ぬぢやないか、即ち新進國の産業を助長すると云ふことが吾々の任務であると云ふことを述べたさうであります。ところが獨逸の人が云ふのには、商業には道德と云ふものがある、信用ある物を賣ると云ふことにして貰ひたいのである。それからまた商標その他のものを偽造したり真似たりしては困る、それは日本のことを指して居るのださうであります。ところがこの間支那に來たり羅斯と云ふ人（英國政府の財政顧問）が立つていふに、そんな細かいことを論じて居つた日には議論は決まらない、今日は大項目だけ決めたらいいだらうと云ふてバルフォアの意見を支持し之を通したさうであります。

併しながらその裏面に於いて英吉利はちつと控へて居つて、今に見ろと云ふ確信がなければその言葉は云へぬものと思はれる。既にオッタワ會議の結果として、彼等が自治領の間の關係を密にして、若し日本が攻めて來れば防がうと云ふ武器も持つて居るやうに見える、確信があればこそさう云ふことも云へるのであるが、斯くの如き悠揚たる態度を持つて居ると云ふところに英吉利の根強き所が現はれて居ると見て取つたのであります。このリーズロス氏がこちらに來る前には龍頭の日本の人々にも接して來たやうでありまして、今回の使命が成功したかせぬかは別として、このリ氏の精神否英帝國の精神は餘程雄大なものではないかと思ふ。スターリンのプロツクを以つて世界を席捲しやう、支那迄も席捲しやうと云ふ大きな意圖の現はれであると云ふことを思ふ時に、多少失敗しても英吉利人の氣魄と云ふものは茲に存して居るものと思はざるを得ぬと斯様に思ふのであります。

その話はその位に致しまして、私はポールドウキンと云ふ人に會ひました。これは幸ひ大使館のお骨折りに依りまして、ダウニング、ストリート十番館と云ひますか、氏の居る所に行きまして、閣議の部屋に通されまして暫く話したのであります。いろいゝろの話の中に私は、貴下にお目にかゝる一番の眼目、英吉利の議會政治、政黨政治と云ふものに就いての御意見を謹んで伺ひたいと思つて來たのであると申しますと、この人が云ふのに、それはもう英吉利に於いては疑はないのである、ソヴェエトがどんなことをしても、伊太利、獨逸がどんなになつても、吾々英吉利人と云ふものは憲法政治、議會政治と云ふものは血を以て購つたものである、歴史を以て積み上げたものである、即ち歴史と傳統の力に依つてこれを保存し強化して行くと云ふのが吾々の唯一の眼目であつて他に疑はないのである、それは新しい國などには何かあるかも知れないが、吾々はさう云ふ歴史を持ち、傳統を持つて居るのだと云ふ。それならば比例代表と云ふものはどうかと云つたところが、そんなものには頓着せぬのです。そんなものは却つて危い、危険だ、吾々は多數を得ると云ふことが議會政治の眼目である

私は十八年間何かの形で以てこの政府の御用を勤めて居るのであるが、多数黨を持つて居る間は誰が何と云つても退かぬ、時々去つて呉れと云ふやうな顔をする者もあるが頑張つて退かぬと云ふてえらい勢だつたのであります。

この人は妙な人で鼻の先に赤い毛が一本生えて居りますが、私は例に依つて健康法を聞きますと、一寸考へてゐたが、實は私は六十八である、人間も六十を過ぎると健康を注意しなければならぬ、晝でも夜でも私は親友數人の會合の外は勉めて宴會などには行かない、オブリゲーションといふものを感じないのだと云ふ。そこで私は貴下は酒を飲みますかと聞くと、尠しは飲むと云つた、どんな物を食べますか、自分の好きな物を食ふ、夜は十時には寝る、土曜日、金曜日は十時には寝ると云ふ話でありました。この間或る俱樂部でも申しましたが、時間を節約して自分の時間に使ふと云ふことは歐米ではどこでもやつて居るらしいのであります。ルーズベルトでもあの忙がしいのに半分遊んで居ると云ふのは日本ならば免職ものです。さう云ふ風に誰でも時

間を空費せぬやうに、滅多矢鱈に面會なんか求めぬやうに出来ぬものかと思ふのです。現に私共は困るのであります、朝寝て居る内に起こされて困る、今日なども未だ飯も食はずに茲にやつて來たやうな有様で、こんなことでは實に困るのであります。何かこれは有識階級諸君の御申合せに依りましてもう少し時間の制限をやることに出来なものでありませうか、茲に御相談申上げて置く譯であります。

それから同じく議會のことに就きましてその他イーデン氏、サイモン氏等にもお目にかゝつてお話を伺つたのであります、英吉利の議會と云ふものは貴下も度々御覽になつたでありませうと云ふので、私も度々傍聴したと答へた。議長席がちやんとあつて、議場に入ります者は、退場の時も、入場する時も皆お辞儀をする。あれは昔の王宮のチャペルのあつた跡で、それを建直したものであるが、教壇に向つて皆お辞儀をする、議長席に議長が居らうが居るまいがちやんとお辞儀をする、これは議長の威嚴を強める爲にするのだと云ふことであります。サイモン氏は議會の要諦を説い

て云ふのに、我が議會に於いては王はピトウ（拒否）の權を持つて居るけれども、未だ會つて王と雖も人民と雖もピトウの權を振廻されるものとは思ふて居らぬ。それから議會と云ふものは古來より男を女とし、女を男と爲すことの外は何事でも爲し得るものと云はれるが、それでも極端なことをしやうとは夢にも思つて居らぬ、常に中庸を以て行く所に議會政治を保存する要諦があると云つたのであります。かういふことをいろ／＼話して呉れましたが、教へを乞ふて洵に有難いと云ふて戻りました。

尙サイモン氏の話に依りますと、亞米利加では大臣、大統領などは議會に出席することが出来ない、然し英吉利では大臣即ち議會に出席するものである。その利害如何と質問しますと、サイモン氏は答へて、大臣と云ふものはキングから給金を貰ふて居る者だ、さう云ふ者はキングの奴隷のやうなものだ——奴隷とは申しませんが、さう云ふやうな意味です——そんな者が議會に這入つて來てものを云つては堪まらぬ。だからそんな者は議會から放逐しろと云ふので、英吉利でも殆んどその間際まで行つた

さうであります。それが恰度亞米利加の建國の頃であつたから、その時の思想が移つて大臣なんかは議會に出席し得ぬと云ふことになつたのである。併しながら今英吉利の模様を見ると、私も大臣であつて矢張り這入るが、大臣としては見て居らぬ、皆同僚議員として扱つて居る、私もさう云ふ心持ちで這入つて居る、互ひに膝を交へて議員として國政に參與するのだ、吾々は亞米利加のやうな極端な例には組せぬものであると云ふことを明瞭に申して居りました。

又亞米利加では大統領が決議を以て決めた事を、先程申しましたニュー・デイルにしても、大審院が判決する。ところが英吉利では王がサインすれば總ての方針が決まつてしまふと云ふことは、いゝのであらうか、悪いのであらうか、亞米利加のやうな輿論に媚びるやうな所では大審院の權限があるのもいゝのかも知れませんが、これでは何だか心細い氣がする、要はそれ／＼の國情によるものと思はれます。

スノーデン氏は片脚がきかないで、歳を超した老政客であります。今度はロンドン

から大變遠方に家を移して居りましたが、會ふと云ふから參りました。その話に依れば英吉利の勞働運動その他が極端に走らぬと云ふことは、英吉利が中産階級を持つて居ると云ふことに歸するやうであります。貴下は此處に来る迄に澤山の小ぢんまりとした家を見て來たであらう、彼等は飢えず凍えず、併しながら贅澤も出來ない、さう云ふ者が英吉利に澤山居ると云ふことが、英吉利の順調に進んで行く所以であるのだ、この中産階級は減りはせぬ、殖えて居るのだと云ふことを私に説明したのであります。これも斷片として諸君に申上げて置きますが、何故かと云へば、日本の政治と云ふものは中産階級を——極端に云へば——願て居らぬと思ふのであります。政治のことを此處で話すのはいかんでありますが、デフレーション以來日本の中産階級は殆んどないのではないか、農村に於いては中流階級の地主と云ふものは形體は存して居つても實はもうない、茲に日本の危険性が宿つて居るやうな氣持がしてならぬ。何とかして工業と云はず、商業と云はず、農業と云はず、中流階級と云ふものを維持すると云

ふことが一番の急務ではないかと私には思はれるのであります。

獨逸

段々長くなりますのでつゞめて申し上げますが、獨逸に參つて暫らく觀て居つたのであります。獨逸に於いては總ての方面が皆新しい、青年時代であると云ふのが現在の獨逸の姿であらうと思ひます。何故かと申しますと、第一私が十五年前に行つた時に權勢を持つて居つたところの人々はもう一人も居りません、皆休職若くは退職してしまつてもう居らぬのであります。暗殺された人も居る、今は悉く新しい人々が出て來て居る。實業界はどうかと云ふと當時の者は今日皆閉息してしまつても云へないそれはどうしたのか、非常なインフレーションの結果、故意にしたのか偶然か、金持ちと云ふ金持ちは皆倒れた。政治家は固より革命に依つて倒れて、若い新しい人達が出て居る。政界に於いても經濟界に於いても昔の人々は良きも悪きも皆倒れてしまつた、さうしてその燒跡の中に新しい芽を吹いて來た。行つて見て實に新しいと思はざ

るを得ませんでした。

クルツクのクルツプ・フォン・ボーレンと云ふ人に會ひましたが、この人は六十五の誕辰を迎へた人であります。行きましたところが一家擧つて出て來て接待して呉れました。いろ／＼話して居るうちに、亞米利加の政策を非常に批難して居りました。亞米利加が有り餘る金を持つて居つて何處へも融通せぬと云ふことが今日の世界疲弊の所以である、國內と雖も金と云ふものは取引の間のギャップを補ふ效用しかないものである、それだけの働き以上に有り餘る金を持つて居りながら融通せぬと云ふことはいかん、それが今日の世界疲弊の所以であると云つて居りました。又自分は今日でも獨逸に一朝事ある時に於いては眞つ裸になつてもいい、今年六十五だけれども、この僕の腕で馬鈴薯を耕して家族を食はすことが出来るんだと云つて、意氣軒昂たるものがあり、甚だ頼母しく感じたことでもあります。

獨逸各大臣にしても皆元氣横溢えらい勢であります。熱心の餘り私一人に向つて演

説を始めるのもあります。で何を話すかと思ふと、何れも日本の國情を非常に美しがるのです。日本の天子様と人民とのことも随分調べたと云つて、所謂國體明徴と云ふやうなことに就いて、日本の國民の精神教育、精神的訓練と云ふやうなことに就いて褒められたのでありますが、いろ／＼問ふから話したのであります。日本の國體と云ふものは天子様が上に居られて、その天子様より日本の國は生まれ出たものである、貴下の方は國があつてさうして主権者や人民が出來た、私の方はさうぢやないのだと云ふて聽かしたのであります。彼はヒットラーをして日本の天子様のやうに尊嚴な神祕的なものになりたいと云ふことに努めて居る、又努めたいものであると云ふたのであります。私は内心、何を云ふのだ、三年四年の新店のヒットラーを、何千年と云ふ古い歴史を持つ日本と一緒にされては堪まらぬと思つたのであります。向ふでは日本の精神教育を眞似て居るのであります。又勞資協調と云ふやうなことも勞働大臣ライと云ふ人は説いて居つた、一人は總ての爲、總ては一人の爲だ、お前はさうは思はぬ

か、と云ふ標語が労働組合事務所の軒先に大文字で表してあります。

獨逸各般の施設の大眼目は、ヒットラーを中心として、國民の團結を期して行かう、即ち日本が皇室を中心として國民が團結して居るやうに、ヒットラーを中心として團結して行かうと云ふ精神的の訓練と云ふものが總ての先に立つて居るのであります。その證據には——日本にも澤山ありますが——向ふには至る所に青年訓練所があつて青年の訓練を行つて居る。さうして最初は或は灌漑とか、護岸とか、道路とか、山林とかと云ふやうなことを教へる所であつたのでありますが、ヒットラーになつてからはそれは二の次であつて、一番の眼目としてこの青年訓練所には商業従事者も、工業従事者も、農民の子も、役人の子も皆一緒に入れて訓練して居るのだと云ふことを一番の誇として説明するのであります。さうして第三帝國、即ち第一の帝國は羅馬帝國、第二は即ちフレデリック大王の時にビスマルクの手につくられた聯邦國、第三は即ち今日の獨逸帝國、今日は聯邦はないのだ、一つの國である、チュートン民族は國の外

に居る者迄も一緒になつて世界の文化の爲に貢献して行かうぢやないか、チュートン民族は世界で一番優勢な民族である、今日迄國民の勢力の消耗しないのはチュートン民族だけだ、このチュートン民族あつてこそ世界の精神文化を指導し得るものであると云ふ立場に立つて居るので、物質は二の次であります。ダレーと云ふ農業大臣に會つてその事を話した時には非常に喜んだ、こつちへも弟子を寄越して呉れ、ばよく教へて上げると云つて居りましたから、これは大使館の人に引繼いで來たのであります。が、話しても喜ぶ位で、どうしても精神的方面に重きを置いて居るのであります。

あすこの農業の法律で一つ目新しいものは、耕地の世襲法と云ふやうなものが出來て居ります。簡単に申しますと、非常に狭いもの、非常に廣いものは除外して、一家を支へるだけの耕地と云ふものを保存して、これは人にも貸さなければ、又差押へも出來ないことにして居る。これは男系をして繼がしめ、次に女系に及ぶと云ふことになつて居る。男系とは何ぞや、これは長子に限らず兄弟の中で最も家を支へるに適當

なる者に與へて居る、兄弟に適當な者がなければ父の兄弟、さもなければ娘や伯母さんに渡すと云ふことになつて居ります。これはどう云ふものかと云つた所が、昔さう云ふやうな習慣があつた、それが遺憾ながら十八世紀以來の産業革命の爲になくなつてしまつたので、それを復活したものであると云ふのであります。そこで私は、特定の土地に着かしめることは宜しいが、我が日本に於いてはさうは思はぬ、長子が幾ら馬鹿であつても、その長子に對しては兄弟姉妹が相助けて共に協力して家を盛にする」と云ふのが日本の相續法である、貴下の方のとは少し違ふのだと申しましたところが、それは洵にご尤もだ、然し今日は過渡期だからまあそんなことを仰つしやらずに待つて呉れと云ふやうな話でありました。兎に角土地に定着して行かうと云ふのが向ふの考へのやうであります。それに亞いでは相續法のみならず所謂農産物の價格安定法など、云ふいろ／＼細かい法律をつくつて居りますが、これは只今申上げる必要はありません。

それからシャハト大藏大臣——この人は五十歳臺であらうと思ひますが、私の會つた大臣の中では年がいつて居るのであります。この人は御承知の通りライヒス・バンクの頭取兼大藏大臣をして居るのであります。あすこは餘程嚴重に護衛をするものと見えて會ふのに大變であります。廊下を通つて行くと格子目の板戸がある、それを鍵で開けるのです、ドアを開けるとそこに大臣が居るが護衛が二人も附いて居る、社會が安定してもまだ餘程不安なことがあるのではないかと思つたのであります。貴下と少し政治的な話をして見たいと云ふところが、私は財政經濟のことしか知らぬと云ふので、さうではなからう、貴下こそ政治經濟の中心に立つて居られるのだらうと云つたところが、さうらしい顔をしたのです。段々話して参りますと、萬事は兵力だと言ふのです。萬事は兵力だ、軍備を整へることだ、エチオピアなどは何にも兵力がないからあんな目に遇ふのだ、獨逸が發言權を得る爲には軍備をどうしても擴張しなければならぬのだと云ひます。そこで私は、貴下の方にも金がないぢやないか、銅も

要れば鐵も要ればゴムも要る、いろ／＼な物が要る、貴下の國にはそれが殆んどないが、どうするのだと云ふと、それは技術を進歩せしめ統制を行ふてやるのだと云ふ。統制と云ふ意味はよく判らぬのでありますが、産業を統制することでありませう。又一方には代用品を造るんだと斯う云ふことなのであります。然し幾ら技術を進歩させても、機構を整へても無い物はいかぢやないか、又代用品と云つても急に間に合ふものではないぢやないかと云つたところが、つまりは植民地を得なければならぬと云ふことを白状したのであります。現に其後宣傳大臣はこれを世界に向つて宣傳して居るやうであります。いづれそこ迄來るだらうと思ひます。併しながら日本とは——南洋のことを云つて居るのだらうと思ひますが——平和を保ちますと云ふことを云つて居つたのであります。それからまたタールか何かで造つたとか云ふ白いセルロイドみたいな物を出して、これは焼けぬのだと云つてライターを出して焼いて見せる、又褐炭の液化を行つて居るが、ロイナと云ふ工場の技師に君の國の需要が全部出來るかと思ふのであります。

伯林に行つて見ますと、人心は必ずしも安定して居らぬやうであります。警戒を警備隊や軍隊の力を以て隙間なくやつて居るが、いろ／＼な偶語を壁に書いたり街路に書いたりすることが随分はやるのであります。或人は笑ひ話として世界に三人の大きな寫眞屋が居ると云ふ、第一は誰かと云ふとムツソリーニだ、これは第一の寫眞をうつす、それを複寫する者がヒットラーである、又それを擴大するのがゲツベルスである。或時伯林の街の真ん中に大きなトラックが横はつた、交通妨害になつて仕方がない、その中にラウドスピーカーが載つてある、一體全體そんな大きなラウドスピー

カーは何と云ふ名前のものか、君、それはゲツベルスと云ふラウドスピーカーだよと云ふ。彼は始終何かやと放送するので嫌はれて居るやうであります。

向ふの政局は目下不思議な取組となつて居る、シャハトと云ふ大藏大臣が陸軍大臣と手を握つて居る、軍備擴張ならば俺が財源をつくつてやる、然し俺の財政政策は支持して呉れと云ふ、ヒットラーが此二人の上に乗つかつて居る。この状況と云ふものは我が日本に於いても餘程参考になるのではないかと私は思つて觀て參りました。

佛 蘭 西

次に佛蘭西に行きました。佛蘭西は金ブロックを守ると云ふことばかりに熱中して、他に何も仕事がないやうに見える、つまり何時かはつぶれるのぢやないかと云ふ氣もするのであります。私は専門家でないから判りませんが、専門家に聞いてもそんなことを云ひます。一つ不思議なことは、今の共和政治に向つて、右に王黨と云ふものがあり、左の方にコンミニュニストと云ふものが居る、さう云ふものが公然許されて

議會に現はれていろ／＼なことをやつて居る、不思議ではないかと云ふて或大臣を訪ねて聞きましたところが、その大臣が云ふのに、それは佛蘭西では言論の自由に少しでも立ち入ると云ふことがあればその政府は保たれぬのだ、だから王黨が居らうが、コンミニュニストが居らうが仕方がないのだ。併しながらそれが一度實行に這入れば直ちに抑壓する、それだけの自信はあるのだと云つて居りました。これは負け惜しみであるかどうか知りませんが、然し味はふべき言ではないかと思ふのであります。

私はレオン・ドローデーと云ふ七十ばかりのお爺さんに會ひました。この人は王黨の首領であつて今は議員ではないが、昔王黨を名乗つて當選したことがある。いろ／＼話して居る間に壁に大小二つの寫眞が掛けてあるのに氣が附いたが、私が歸らうとすると、一寸待てと云つてその寫眞を指して、大きい方は殺された同志の寫眞、小さい花輪の掛けてある方は自分の十四になつた子供だ、十四の時に共和政府の者に殺されたのだと云ふ。私も二、三年前に新聞を讀んで一寸覺えて居つたので、浚はれたので

はないか、死んだと云ふことは出てゐなかつたがと云つたところが、いや死んだに違ひない、共和政府の警察官なんかはあてにならぬ、自分が王黨だから共和政府の者に殺されたのに違ひないと云ふ。タビスキーと云ふ大きな事件があつたが、これは政府の大官を買収した事件で、プリンスと云ふ豫審判事がこれを調べて居つた、ところがこの豫審判事が何時の間にか殺されてしまつた、またタビスキーと云ふ者も自殺した、否自殺ぢやない、殺されたのだ、皆で寄つてたかつて證據の湮滅を圖つたのだ、こんなことではいかんから自分が敵を討つて見せると云つて、そのお爺さんは大變な權幕でありました。貴下は歳が七十だと云ふが未だに嬰鑠として居るから、息子さんの分と一緒に二人分働かなければなりませんねと云つたところが、いきなり私に抱き付き接吻をするのであります。さう云ふ譯でありますから、言論の自由と云ふことは何を措いても尊重されて來たのであります。これは何か味はふべき點があるのではないかと思はれるのであります。

又現在佛蘭西に於いてはソルボンヌ大學を中心として各國の學生を集め、寄宿舎の設備も設け、さうして佛蘭西の文化を彼等を通して世界に廣めやうとして居る。日本のは薩摩さんが寄附したと云ふので、壁に藤田嗣治氏の丹誠の畫があります。その佛蘭西の文化を他國に廣めて行かうと云ふ心持が嬉しいのであります。そこに何か大國民の餘裕があるやうに思はれるのであります。

伊 太 利

その次はムツソリーニの話でありますが、伊太利ではこの間も新聞ではファツシスト組合の會議を起して、議會をつぶすと云ふことが書いてあつた。私が居る時からさう云ふことはあつた、伊太利に於いては議會はあれど無きが如くになつてしまつて居る。その代り職能代表と云ふものを起してやらうとして居る、所謂組合——コーポレーションと云ふものを中心とした所の職能代表に依る會議を起してやらうとして居るのであります。これは段々調べて見ますと、今日迄には固よりコーポレーションと云

ふものは發達して居つた、それを基にしてやらうと云ふのでありますが、十三年經つた今日に於いても未だコーポレーションに依る職能代表と云ふものは完全して居るものではないのであります。私はムツソリーニの片腕となつて居るランチニーに會つて話したが白狀しない、實はまだ未熟な考へであつて、將來どうなるか確なことは話せないと云ふのでありますが、ファツシスト大會と云ふものを設けて、これに依つて憲法上、政治上の決定を與へしめ、職能代表と云ふものを設けて、それをして經濟上の問題を決定せしめやうと云ふ肚を持つて居るやうであります。さう云ふやうに議會を直して行かうと云ふのでありますが、これは輿論政治を裝はんとする爲であるか、或は本當にさうする爲であるかと云ふことは私には判らぬ。又職能代表と云ふものを設けて、例へば葡萄を植える、さうしてそれを探取し箱に詰めて輸出する、葡萄酒を造る、之を販賣する迄の一聯のものを一つのコーポレーションとして、その組合の爲に必要なことは自治的に取締法を設けていゝと云ふ絶大なる權力を與へて居るやうであ

るが、若し左様にして葡萄は葡萄、梨は梨、ゴムにはゴムのコーポレーションをつつて行つたらどうなるか、伊太利と云ふものは職業別に依つて四分五裂の有様になつてしまふ。そこでさう云ふことでなしに、職業以外に社會的見地に立つて考へて行かなければならぬものではなからうかと思ふのであります。日本でも職能代表をよいやうに頻りに云ふ人もありますが、私は左様に思ふのであります。これはまだく研究の餘地があり、又國情に思ひを致さなければならぬものであると考へるのであります。

餘り長くなりますので今日はこれで一應御免を蒙ります。

昭和十一年四月二十八日印刷
昭和十一年五月五日發行 (非賣品)

東京市品川區北品川三ノ三一九

編輯發行人 中島 司

東京市麹町區有樂町二ノ七

印刷人 吉岡清次

東京市丸ノ内仲通十二號館六號

發行所 中央朝鮮協會

(電話九ノ内一六三四番)

終

